



校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

不審者対策を実施 第2回避難訓練



〇〇少年係長さんのお話

7月6日(木)の3校時の途中、全校生徒にすぐに体育館に移動するよう緊急の校内放送が入りました。生徒が体育館に移動後、すぐに廊下のシャッターを下ろして教室棟から「隔離した状態」を作りました。実はこれは「不審者対応の避難訓練」で、今回生徒には事前に連絡をせず実施しました。

3時間目が始まってすぐ玄関に不審者が現れ、職員が対応しながら、そのすきに警察に通報し、生徒を速やかに避難させること、そして不審者を生徒からできるだけ遠くに引き離しておくという職員の動きを中心に訓練を行いました。その様子を当然生徒は見ていません。「臨時集会を行うので体育館に移動しなさい」という緊急放送に生徒は少し驚きながらも、整然と対応していました。

体育館に移動した後は由利本荘警察署の〇〇〇〇少年係長さん、スクールサポーターの〇〇さん、駐在所の〇〇さんからお話がありました。自分の命を守るためにはどうしたらよいのか「いかのおすし」や「あはしも」など、具体的な対応について教えて頂きました。いつもとは違う「抜き打ち」の「避難訓練」でしたが、さすが中学生。きちんとできました。

小学校と違って知らせずにやるので、少し驚きました。でも、そうやることで沢山学ぶことができました。「いかのおすし」を少し忘れていて、すぐに思い出すことができなかつたけど、このことをもしもの時に活かして自分の身を守りたいです。(1A〇〇〇〇さん)

校長先生からお話があったように小1・小2の小さな子どもが学校で不審者に会い命を落とすと聞いて怖くなった。中学生になって大声で叫ぶということもなくなっていたけど、今日大声を出す練習をし、たまに声を出すという決意をもちました。(1A〇〇〇〇さん)

最初は何が起こったのか分からず、先生たちも分からないようで、とても怖かったです。今日は先生がいるので安心でしたが、一人の時にこのようなことがあったら、自分の身は自分で守れるように「いかのおすし」を忘れません。(2A〇〇〇〇さん)

今日の避難訓練は報告されていなかったのですごくびっくりしました。でも冷静に行動できました。学校は安全だと思っていたけれど2001年に不審者によって大変なことになったということを知ったからこれからはいきなり訓練があっても冷静に行動したいです。(1A〇〇〇〇さん)

今日の避難訓練は事前に聞いていないので動揺しました。でも、もし犯人が来たとしても事前に連絡はありえないのでいい経験になりました。学校外でも同じことがあるかもしれないので、自分の身を自分で守っていきたいです。(2A〇〇〇〇さん)

学校で怖い事件が起きたという現実を知って、今本当に訓練をしっかり覚えておかなければいけないと思いました。もっとよく避難方法を知っておかないと、事件が起きて命を守れないかもしれないと本当に怖いと思いました。(2A〇〇〇〇さん)

今日の避難訓練ではすごく急で先生方も分からなそうで、心の中ではすごくあせっていました。本当にあった時はもっと急で怖いと思うので、いつでも冷静にしたいと思います。今日はすごくよい経験になったと思います。(2A〇〇〇〇さん)

いきなり緊急全校集会が始まると聞いて何が起こったのだろうと思ったら、抜き打ちの避難訓練で、その内容も不審者で驚きました。今日やった対処方法をもし起こった場合に使って自分の身を守るために最善を尽くして頑張りたい。(3A〇〇〇〇さん)

いきなり放送が鳴ったので、ついに本物が来てしまったのかとびっくりしましたが、防犯のための訓練でホッとしました。「いかのおすし」が出たが、自分はその意味を完全に忘れていたので、改めて学ぶことでよかったです。(3A〇〇〇〇さん)

今日の訓練はいつもとちがい事前に連絡がなく「え、何？」と戸惑う部分があった。でも毎回やる訓練のように「おはしも」を守って冷静に避難することができた。もしもの時は叫んで助けを求めたり、自分の命は自分で守りたい。(3A〇〇〇〇さん)

避難訓練でのお話

皆さん急に臨時集会の放送が入り、何が起きたのか不思議に感じた人もいたと思います。これは不審者対策の避難訓練でした。今日の前半の訓練は主に「先生方がどう対応できるか」ということと、皆さんを「動揺させることなく安全な場所に避難させる」かが大きなねらいでした。これから後半は皆さんのための訓練となります。

さて、不審者対策といっても色々なケースがあります。今日のような訓練は、絶対忘れることのできない沢山の犠牲者を出した「ある事件」を契機に行われるようになりました。

事件が起きたのは2001年6月8日午前10時10分、場所は大阪教育大付属池田小学校です。2時間目の授業が終わりかけた直後でした。校内に侵入した犯人がテラスを伝い、廊下を通過して、教室を移りながら刃物で子どもたちを襲っていきます。最悪なことに、早めに授業が終わり、先生のいなかった2年南組で5人、まだ授業を続けていた西組で8人、さらに東組で4人、最後に1年南組で4人、計21人の幼い子どもが次々と刺されました。子どもたちは悲鳴を上げて逃げ回るしかありませんでした。この事件で亡くなったのは2年生の女児7人と1年生の男児1人の8人、重軽傷を負わされたのは児童13人と2名の教師、絶対にあってはならない凄惨な事件でした。そして、この事件を体験した児童は219人です。今も心の中に癒えることのない大きな傷を抱える人が沢山います。

重傷を負った一人は次のように事件当時を振り返っています。
「男が教室に入ってきたのは覚えています。逃げようと思った時にはもう刺されていたっていう感じでした。多分、後ろ向きで刺されたんです。傷は背中に長く、右横腹を貫通していたんです。その時は痛みがすごくてズキズキして、脈が分かるぐらいでした。担架が足りず、長机に乗せられて病院に運ばれました」

何故こんな事件が起きてしまったのか。それは当時はまだ警戒心が薄く、校内に知らない人がいても「生徒の関係者だろう」と、特に不審に思うことをしなかったからです。誰もが「まさか学校に悪いことをしに来る人はいない」「学校ほど安全なところはない」と思っていたからです。「学校は安全だ」という「神話」は残念ながらこの事件で崩れてしまいました。

私はこんな訓練をしなければならない今の世の中や時代を大変悲しく、情けなく思います。でも、命はひとつしかありません。お父さんお母さんから預かったみんなの大切な命を絶対に守らなければなりません。そして、皆さん自身も、自分の命は自分で守らなければならないのです。これから警察の方がお話しされることをしっかりと聞いて、自分の命も他人の命も守れる人になって下さい。